氏名（本籍）	望月 由妃子
学位の種類	博士（看護科学）
学位記番号	博甲第　7399　号
学位授与年月	平成 27 年 3 月 25 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 1 項該当
審査研究科	人間総合科学研究科
学位論文題目	「虐待チェックリスト」の開発 ―子育て支援機関における早期発見・早期対応に焦点をあてて―

主　査	筑波大学教授	博士（工学）	川口　孝泰
副　査	筑波大学准教授	博士（医学）	吉岡　洋治
副　査	筑波大学助教	博士（ﾋｭｰﾏﾝ・ｹｱ科学）	川野　亜津子
副　査	筑波大学教授	教育学博士	徳田　克己

論文の内容の要旨

（目的）

本研究は、子育て支援機関の専門職が、虐待予防、早期発見、早期対応に向けて利活用可能な「虐待チェックリスト」を作成し、その実用化に向けた妥当性・信頼性の検証、および虐待把握可能性の検証を行うことを目的とした。

（対象と方法）

本研究は、「虐待チェックリスト」の開発（研究 1）、内容的妥当性の検証（研究 2）、信頼性、虐待把握可能性の検証（研究 3）の 3 つの研究で構成された。

1.「虐待チェックリスト」の開発（研究 1）

研究 1 では、保育専門職への予備調査から項目抽出された虐待チェックリスト試案をもとに、「虐待チェックリスト」を開発することを目的とした。方法は、フォーカス・グループ・インタビュー調査（以下 FGI）により行った。調査対象は、1)保育園長、2)幼稚園長、3)ケースワーカー、相談員、4)児童相談所長、児童福祉司、児童心理司、の 4 グループ、総計 22 名であった。

2.「虐待チェックリスト」の内容的妥当性の検証（研究 2）

研究 2 では、研究 1 によって作成された「虐待チェックリスト」60 項目の内容的妥当性を検証した。対象は、研究 1 の参加者の他に、5 か所の児童相談所長、児童福祉司、児童心理司および保健師等、総計 62 名であった。方法は、「虐待チェックリスト」の各項目について、虐待リスクのアセスメントのチェック項目の重要性を問う、自記式質問紙調査により実施した。各項目の重要度について「とても高い」「やや高い」「低い」の 3 件法で回答を求め、重要度が高いと回答した「とても高い」「やや高い」の割

合をもとに内容的妥当性の検証を行った。

3.「虐待チェックリスト」の信頼性および虐待把握可能性の検証（研究 3）

研究 3 では、「虐待チェックリスト」の信頼性、および虐待把握可能性の検証を行った。対象は、研究 1，2 に参加した者とは別の対象集団（保育園長、主任保育士、市のケースワーカー、相談員）とし、作成したチェックリストを用いて、現実に対応している虐待の疑いが有ると評価された子どもの評価を依頼し、信頼性、および虐待の把握可能性についても検証した。

（結果）

1.「虐待チェックリスト」の開発（研究 1）

FGI の結果、各グループの過半数以上の専門職が重要であると評価した項目、かつ 4 グループのうち 2 グループ以上の評価が得られた項目をチェックリストの構成項目とした。内容は、子ども(状況・言動)について 23 項目、養育者(状況・言動)について 28 項目、環境について 9 項目、総計 60 項目が「虐待チェックリスト」項目として選定された。

2.「虐待チェックリスト」の内容妥当性の検証（研究 2）

子育て支援機関専門職および児童相談所専門職を対象として、FGI によって選定された全項目の重要性を評価・検証し、その結果、本チェックリストの全ての項目についての内容的妥当性が確認された。

3.「虐待チェックリスト」の信頼性および虐待把握可能性の検証（研究 3）

当該チェックリストの信頼性を、安定性、内的整合性、同等性から検証した。その結果、安定性（子ども領域 0.92、養育者領域 0.96、環境領域 0.87）、内的整合性（クロンバックα係数：全体 0.94、子ども領域 0.90、養育者領域 0.91、環境領域 0.74）同等性（子ども領域 0.70、養育者領域 0.82、環境領域 0.69）ともに、いずれも高い相関がみられ、本チェックリストの信頼性が確認された。また、虐待把握可能性の評価では、参加者の全員が、虐待把握が可能であったと報告しており本チェックリストの有用性が確認された。

（考察）

本研究のオリジナリティは、保育園および幼稚園等、乳幼児期の子育て支援機関において虐待が疑われる子どもを発見した場合、早期発見と利活用可能なチェックリストとして、当事者の視点を反映させて開発した点である。援助機関の早期リスク把握は、虐待予防、早期発見、早期対応の一助となる。また、本チェックリストは、子育て支援機関専門職によって開発され、内容的妥当性、信頼性、虐待把握可能性が確認された点で意義がある。さらに、本チェックリストには家族の持つプラス要因(強み)が含まれており、家族エンパワメント支援への貢献が可能となる。一方で、本研究の限界として、本チェックリストには緊急度や重症度、発達障害との関連などが含まれていない点が挙げられる。今後、緊急度や重症度の評価や発達障害の特徴を捉えた項目の検討を含め、さらなる検討が求められる。

審査の結果の要旨

（批評）

本研究は、FGI 法を用いた質的研究と、量的研究のトライアンギュレーションによって、「虐待チェックリスト」を開発した。今後、子育て支援機関での当該チェックリストの利活用を進めていくことで、乳幼児期虐待の予防、早期発見、早期対応への貢献が期待される。

平成 26 年 12 月 18 日、学位論文審査委員会において、審査委員全員出席のもと論文について説明を求め、関連事項について質疑応答を行い、最終試験を行った。その結果、審査委員全員が合格と判定した。

よって、著者は博士（看護科学）の学位を受けるのに十分な資格を有するものと認める。